

「科学技術立国」を支える これからの**研究者育成**

令和元年 **9月10日(火)**

14:00~16:30(13:30開場)

国立国会図書館東京本館 新館講堂
(東京都千代田区永田町1-10-1)

募集定員：**200名**(先着順)

**参加費
無料**

(要事前申込み)

ファシリテータ

綾部 広則氏 (早稲田大学理工学術院教授、国立国会図書館客員調査員)

パネリスト

天野 絵里子氏 (京都大学学術研究支援室リサーチアドミニストレータ)

榎木 英介氏 (医師、一般社団法人科学・政策と社会研究室代表)

隠岐 さや香氏 (名古屋大学大学院経済学研究科教授)

林 隆之氏 (政策研究大学院大学教授)

石渡 裕子 (国立国会図書館専門調査員、文教科学技術調査室主任)

「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成

21世紀に入り、科学技術イノベーションへの関心が急速に高まっています。ところが、そうした期待とは裏腹に、「科学技術立国」の足元が揺らいでいるかのような状況も生じています。「ポストク問題」に象徴されるように、研究者への道を歩み始めた若手研究者は、不安定な雇用形態で働くことを余儀なくされているのが現実です。こうした状況を反映してか、近年では博士課程への進学率も低下する傾向にあります。加えて、発表論文数や論文の被引用数も伸び悩んでいます。

このような状況をもたらしている原因を解明し、「科学技術立国」を確立する上での課題を明らかにするためには、研究者育成の問題にとどまらず、「研究」を取り巻く社会・文化的背景までも含めて総合的に考察する必要があります。

シンポジウムでは、研究者育成問題の専門家に加え、科学技術政策や研究の社会・文化的位置付けに詳しい専門家もお招きし、可能な限り幅広い視点から「科学技術立国」を支えるこれからの研究者育成について考えます。

プログラム

開催趣旨の説明と問題提起 石渡 裕子

報告 天野 絵里子氏 「研究者の視点に立つて」

—京都大学学術研究支援室(KURA)におけるURAの取組—

榎木 英介氏 「地べたからみた若手研究者問題四半世紀」

—何が変わり、何が変わらないのか—

隠岐 さや香氏 「「イノベーション」政策と学術の関係—歴史的視点から—」

林 隆之氏 「研究者養成問題の背景・構造」

パネルディスカッション(ファシリテータ 綾部 広則氏)

申込方法

国立国会図書館ホームページの申込フォームからお申し込みください。

国立国会図書館ホームページ>イベント・展示会情報>イベント一覧

<https://www.ndl.go.jp/jp/event/events/2019kagiprosymposium.html>

※お申込み完了後、ご入力いただいた電子メールアドレス宛てに確認のご連絡(自動返信)をお送りします。なお、定員に達した時点で受付を終了します。

申込締切

9月6日(金) 17:00

アクセス

■東京メトロ

●●●● 有楽町線「永田町駅」

②番出口 徒歩約5分

●●●● 半蔵門線・南北線「永田町駅」

③番出口 徒歩約8分

●●●● 千代田線・丸ノ内線「国会議事堂前駅」

①番出口 徒歩約12分

■都営バス

橋63系統「国会議事堂前」 徒歩約5分

お問合せ先

国立国会図書館 調査及び立法考査局 調査企画課
(科学技術に関する調査プロジェクト シンポジウム担当)
電話：03-3581-2331(代表)
メールアドレス：ml-st-project@ndl.go.jp

